

イエス・キリストは昨日も今日もいつまでも変わる事のない方です。

ジョーンズボロ アーカンソー州 アメリカ合衆国

1953年05月06日

1 皆さん、こんばんは。

まあ、まるで“家に帰ってきた”ような気持ちがいたします。外に「ホームカミング!」と書いた看板がありました。本当にその通りで、懐かしい古き良き里帰りのような思いです。

こうして、私たちの愛する主イエス様のみ名によって、数夜と一緒に奉仕できますことを、心から嬉しく思います。

実を申しますと、これは私にとって思いがけない出来事でした。ただ…突然、心の内にこう語られたのです。

「さあ、リード兄弟や、あの皆さんのところへ行きなさい」と。

それで、古いパネルの車に本を少しばかり放り込んで、ビリーと二人、そのまま出発したのです。そしてこうして今、皆さんと共にいられることを本当に感謝しています。

タバナクル(礼拝所)は以前より少し様子が変わっているようですね。外観の方が中よりも変わっていると聞いています。

以前ここに来た時には、天窓が開いていて、人々がその上から礼拝の様子を覗き込んでおられたのを覚えています。あれは本当に、素晴らしい光景でした。

主は本当に、私たちに良くしてくださっています。

きっと皆さんにもそうでしょうし、私自身にもそうです。

そしてまた、リード兄弟ご夫妻に再びお会いできる特権を与えられたことも感謝です。

私は兄弟にこう申しました。

「あなたは全然変わっていませんよ。相変わらず“しっかりした体つき”でおられますね」と。

2 「あそこには新しい説教者が来られたそうですね。」

リード姉妹、そうなんですよね?

夜になると、寝室のあるあたりを行ったり来たり…そんな“夜の動線”のことも、もうよくご存じでしょう(笑)。

私もそういう経験を四度ほどしてきましたから、ある意味ベテランのようなものです。

でも、こうして再びこの講壇に立てること、本当に嬉しいことです。

ところで、これは放送されていませんか?…されていない?それなら安心です。

このアーカンソーの皆さんの間に来ると、私は本当に“帰ってきた”ような気持ちになるのです。

アーカンソーにはいつも特別な温かさがあります。

それに、私はアメリカのどこへ行っても、必ずと言っていいほどアーカンソーの方々にお会いするので

どこに行っても、「アーカンソー出身の方、いらっしやいますか?」と尋ねると、必ず手が挙がる。

そして心の中ではこう思います。

「ああ、今日は本物の集会になるな。」

なぜなら、アーカンソーの人々は本当に“信じる”からです。

ここにおられる皆さんの中で、アーカンソー出身でない方を悪く言っているわけではありませんよ。

ただ、アーカンソーの方々にはひとつの特徴があります。それは、難しく考えないということです。

神がどのように人を癒すのか、その“仕組み”を分析したり、理屈を詰めたりしない。ただ信じるのです。そしてそのまま癒される。

これこそ、神が望んでおられる姿なのです。

私たちは決して、神を理屈で理解することはできません。

神は「理解」する対象ではなく、信じるお方なのです。そうでしょうか？

エデンの園には二つの木がありました。

ひとつは知識の木、もうひとつはいのちの木でした。

人が「いのちの木」から離れて「知識の木」の実を食べたとき、

その瞬間から「すべてを自分の頭で理解しよう」とする道へと進み始めました。そして今日に至るまで、その迷い道は続いています。

だからこそ、私たちは今こそいのちの木へ戻り、ただ信じるべきなのです。

そうではありませんか？

3 そして、人がその木の実を最初に一口かじった時、彼は神との交わりを断ち切ってしまったのです。その後、ひとたび「知識の木」の実をかじるたびに、人は自らを滅ぼしてきました。火薬を生み出せば、それは仲間を殺す道具となり、

自動車を生み出せば、それは戦争より多くの命を奪うようになりました。

そして今、人類は“水素爆弾”を手になっています。

——これを一体どう扱おうというのでしょうか。

人が「知識の木」の実を噛むたびに、彼はさらに神から遠ざかるのです。

しかし、神は知識で知るお方ではありません。神は“信仰によって”知るお方です。私たちは信仰によって神を信じる——なんと素晴らしいことでしょう！

どうか、この数夜の集会在、私たち皆にとって大きな祝福となりますように。

私たちは皆、同じ“家族”のようなものです。

そしてきっと皆さんは、主を愛しておられる。

前回ここへ来た時と同じように愛しておられるなら、皆さんは本当に主を深く愛しておられます。私は今でも忘れません。あの通りを歩いたときのこと、人々が子どもを抱き、綿花トラックの下にまで身を寄せて、雨の中で待っていた姿を。

そして、あの奥の方にいた“貧しい黒人の少女”が、その夜、視力を取り戻した瞬間。私は一週間として彼女のことを思い出さない週はありません。

あの救急車の中の女性のために祈ったことも覚えています。

しばらくしてこのブライスヴィルかどこかで証しをされ、その後はカリフォルニアへ行かれ、そこで再びご自身の癒しを証しされたと聞きました。

そしてあの時、あの黒人の少女が、私の上着の襟をつかんで、離そうとしなかったあの姿。私は生きていく限り、決して忘れることはないでしょう。

私たちが最後に集まってからというもの、その間に流れた“川の水”は本当に多くの年月を物語ってい

ます。私が病の方々のために祈る働きを始めて、ちょうど今年で七年になります。主は本当に良くして下さいました。それ以来、約五十万人もの魂が主のもとへ帰ってきました。主は多いに祝福してくださいました。

そして私は再び、アフリカ、インド、パレスチナ、さらに幾つものヨーロッパの国々へ向かおうとしています。なぜなら、時が近いと信じているからです。

主は今、驚くほど速いスピードで御業を進めておられます。

つい最近のアフリカでの集会では、私たちが経験した中でも最大級の働きがありました。十万人以上が集まり、ある午後には三万人が一度に主イエス・キリストを救い主として受け入れたのです。泥で作られた偶像を地面に叩きつけて砕き、

真っすぐに歩み出し、イエス様を個人的な救い主として受け入れる——

そんな“生の異教徒”たちの姿が、そこにはありました。

4 私は言いました「さあ、宣教師が来るのを待たないでください。あなたはこれと同じメッセージを受け取り、白人が行けない部族に行きます。」そして、私はそこに戻ってきたメッセージを受け取りました。ある部族から、これは私が去ってから約1年後です...私が去ってからほぼ1年後ですが、彼らは7台のバン、大きなバン、時計、そして火の武器を持っていましたそして、それらの原住民が盗んで持っていたものを、それを返しました。彼らはもうそれを望んでいませんでした、盗むことや何か悪いこととは何の関係もありませんでした。そして、出て行った男性の一人、ある日は異教徒で、次の日は出て行って、彼は週に千人ものバプテスマを授けました。イエス・キリスト。

ああ、私の！それがそれです。宣教師が入るのを教育するのを待たないでください。神は素早い仕事をしているので、その人に自分の民にメッセージを伝えさせてください。終わりが近づいています。そして、私はそれを心から信じています。

さて、私たちがここにいる間、ほんの少しのグループと一緒に....だから私たちは....もちろん、私はより大きなグループに説教しました、しかし私は今夜よりも家にいるように感じたことはありませんでした。ちょうど家にいるかのように...ちょうどいい感じ。そして今、私たちはこれらの次の数夜を取り、祈りと信仰でいっぱいにして、不可能が起こることを神に信じたいと思っています。

そして今、それは一種の.....これは今夜私にとって新しいことです。私たちのパーティーはちよっと壊れています。ボスワース兄弟はアフリカのダーバンにいて、集会を組織し、集結しています。それはマネージャーの一人です。バクスター兄弟は、バンクーバーのブリティッシュコロンビア州にあり、自宅でアメリカに来てここの市民になるためのビザを取得しています。そして、私たちはただ散らばっています。シャリット兄弟はビジネスマネージャーであるフェニックスにいます。それで、先日リード兄弟が私を呼んで、主がジョーンズボロに来るように言われました。だから、ビリーと私はここにいます。まあ、私はそうです。彼がどこにいるのかわかりません。とにかく、彼はここにいます...どこかにいるはずですよ。

ですから、私たちはここにいることを嬉しく思います。そして今、あなた方全員にあなたの信仰を私たちと一緒にして欲しいのです。そして私たちは私たちが知っている最善の方法で主に仕えるつもりです。あなたの病人と苦しんでいる人を連れてきて、主イエスが彼らを祝福するように、みんなで一緒に祈りましょう。

(ここで間違ったマイクを叩いているのですか、リード兄弟？これは...？大丈夫です。)

5 さて、私は思うのですが——今夜、そして数夜のあいだは、群衆がどっと押し寄せて、雰囲気は圧倒されてしまう前に、少し静かに語り合う時間を持つのが良いでしょう。まずは、聖書のこと、そして私たちの主イエス様のことを、いくつかの夜を通してゆっくりお話ししましょう。また、病の方々のためにもお祈りします。そして、今ここにおられるこの“小さな群れ”の皆さん。もし後から人々が多く集まってくるようになったら——そのときは、「ここで何が起こったのか」「どういう働きがなされているのか」皆さんが他の方に説明してあげてください。

初めて来た方には、少し神秘的に思えることもあるでしょう。

しかし、あなたがたはすでに理解されるので、どう語ればよいか分かるはずですよ。——そうでしょう？私はそれがとても良いことだと思うのです。

ビリーと私は、車の後ろに何冊か本を積んできました。

リード兄弟がそのことを皆さんにお話しして下さるでしょう。

その本の中には、これまでの集会についてまとめられたものがあり、

アフリカのキャンペーンを扱ったものや、

『神から遣わされた人 (Man Sent From God)』

と呼ばれる本も含まれています。

どれも私が書いたものではありません。

他の方々が、私たちの働きを見て書いてくださったものです。

ですが、私たちは本を売るためにここに来たのではありません。

福音を語り、病んでいる方々のために祈るために来たのです。

ただ、本は持ってきていますので、もしご希望があれば、リード兄弟が入手の方法をお知らせします。そして…もし一冊手にしてみたい方がおられるなら、

私がそれを“価値がある”と信じていなければ、そもそも持ってきたりしません。

それらの本は、信仰を奮い立たせる助けになる——私はそのことをよく知っています。リード兄弟が、あとでそのあたりを説明して下さいます。

6 前回、私がこのタバナクルに来て、病の方々のために祈った時のことを覚えておられるでしょうか。

あの時、私はこう申し上げました。

「いつの日か、聖霊がさらに深い働きをされる時が来ます。」

昔、私は人々の手を取り、その手を握って、しばらくじっと待ちました。

すると、聖霊が“その方に何が起こっているか”を示してくださったのです。

病が何であるか、心の内にある問題が何か——。

あの働きを覚えておられますか？

あの昔の集会にいた方はどれくらいおられますか？

…まあ、たくさんおられますね。

“古き良き時代の仲間”がたくさん。

その頃、主が私にこう語られました。

「あなたが真摯に歩むなら、人々の“心の奥の秘密”までも分かるようになる。」

——覚えておられますか？

そう、あの言葉です。

神は決して間違ったことを語られません。

神が語られることは、常に真理です。

だから私たちは、心から主を信じなければなりません。

私は覚えています。

ある朝、リード姉妹のお家の部屋から出てきたときのことを。

私はあまりにも疲れていて、頭が朦朧としていました。

ここから少し下ったところの、あの小さなスタッコの家です。

その時、リード姉妹がピアノの前に座り、私のために弾いてくださったのです。

なんと慰められたことでしょう。

その後、私たちは奥の部屋で祈っていました。

その時、主が私に語られたのです。

「この家には、やがて“男の子”が与えられる」と。

しばらくして、私は島かどこかの働きをしている最中に、知らせを受けました。

妻か誰かが、こう言ったのです。

「リード兄弟からカードが届きました。例の“男の子”が生まれましたよ。」

私は本当に嬉しくなりました。

主を心からほめたたえました。

7 ああ、主は本当に——私たちが願うこと、思うことのすべてをはるかに超えて、

豊かに、豊かにしてくださった お方です。私は主を心から愛しています。

リード兄弟、ここは同じ講壇でしょうか？ちょっと違うような気がしますね。

(※聞き取れない返答)私は覚えています。ちょうどこの辺りにひざまずいていたことを——人々が列をつくり、私は「来られる方すべてに祈ろう」と決心していました。夜ごと、夜ごと、夜ごと、何夜も続けて祈りました。

新しい靴を履いて来たのに、家に帰る頃には先がくるんと反り返っていました。

長いことひざまずいていたので、つま先が後ろへ押し返されてしまったのです。

夜明け前になっても、私はまだここで病んだ方々のために祈っていました。

オレンジジュースを持って来てくださる方がいて、私はここ、机の後ろにまわって少し飲み、またすぐ祈りの列に戻って、祈り続けました。

しかしね——今でも、あの時と同じように主を愛しています。

いいえ、もっと主は甘く、優しく、もっと私にご自身を現してくださっています。アーメン。主を知れば知るほど、主がどれほど真実で、どれほど忠実で、

何度も何度もご自分を証ししてくださったかを思うのです。

クリスチャンの皆さん、もし私が、主がその後になされたことを“半分だけでも”話し始めたら——今ごろから話し始めても、来月の今頃になっても、

まだ語り終えることができないでしょう。それほど主の働きは驚くべきもので、

比べるものがないほど素晴らしいのです。

私にとって、この「旧聖書時間タバナクル」は

いつも“跳び立つ場所”のように感じられるのです。

ちょうどここから、すべてが始まった——

そんな気がいつもします。

あの…何という新聞でしたか？

Sun? Sun?

ああ、そうだ、Arkansas Sun か、Jonesboro Sun。

あの小さな新聞が、

私たちの記事を取り上げてくれました。

とても丁寧に、美しく書いてくれたのです。

それが通信社に流れ、

国中へと広がっていきました。

その頃、妻と私は

届く手紙の返信を自分たちで書いていましたが、

数日で洗濯かごいっぱいの手紙が届き、

とても手が回らなくなりました。

それで、小さなオフィスを設ける必要ができました。

今では——世界に十五か所ほど、

スウェーデン、フィンランド、ドイツ、アフリカ、ノルウェー、ベルギー、フランス、そしてカナダには二つのオフィスがあります。

こうしてみると、私たちの主の働きが世界中に広がっている

ということが分かるでしょう？しかし——

主ご自身は、あの頃と同じ、かわらない、やさしいイエス様なのです。

8 さて、これからしばらく——主イエス様について、少しお話をしていきたいと思います。あまり長く引きとめたくありません。皆さんは綿花の畑で、耕したり、種をまいたり、忙しい季節でしょうから。ですから、この御言葉を聞き、

ほんのひとときだけ目をとめてみましょう。しかし、その前に——。私たちは“ページをめくる”ことはできますが、御言葉そのものを“開く”ことはできません。

覚えておられますね。ヨハネが天上で見た御幻の中で、御座におられる方の右手に書物がありました。しかし、その書物を取ることも、封印を解くことも、

見ることもすらできる者は、ひとりもいなかったのです。ただひとり——世の始めから屠られた小羊だけが、その書物を取り、封印を解くにふさわしいお方でした。

ですから今夜、私たちもその小羊なるイエス様に語りかけ、この御言葉を開いてくださるようお願いしましょう。どうぞ、頭を垂れて祈りましょう。◆ 祈り ◆

愛する天の父よ、私たちはできる限りへりくだった心で御前に参ります。

この御言葉を開くことができるお方は、ただひとり——世のはじめから屠られた神の小羊、主イエス様だけです。どうか、よみがえりの力をもって、今夜この場に来てくださいますように。“携え上げの信仰(ラプチャリング・フェイス)”を

私たちにお与えください。大いなる信仰、満ちあふれる愛、語り尽くせない喜び、栄光に輝く賛美——それらを今夜、私たちに注いでください。そして父よ、

こうして七年ぶりにこの“聖なる古いバイブル・アワー・タバナクル”に戻り、

リード兄弟・姉妹、そしてここにいるあなたの美しい聖徒たちに再びお会いできた恵みを感謝します。あの試練の日も、心が張り裂けるような日も、揺さぶられる時も、影の中を歩いた時も、寒く感じた季節も——あなたの恵みが私たちを守ってくださいました。そしてこうして今夜、私たちはなおもイエス様を深く愛し続けてここに立っています。父よ、その恵みに感謝いたします。あなたの恵みがここまで導いてくださったのです。そしてその恵みは、これからも私たちを導き続けてくださいます。私たちはその恵みに信頼して、なお前へと進んでいくことを願います。アーメン。

9 今夜、私たちは自分自身をあなたに献げます。あなたのしもべとして、奉仕の備えのために。どうかこの地に、再び聖霊の豊かな注ぎを与えてください。

この町に、そしてその周囲の町々にも。神の御使いたちが降りてきて、

家庭を訪れ、人々の心を揺り動かしてください。主よ、それをお与えください。

どうか古き良き“リバイバルの火”が再び燃え上がり、留まることなく前へ、前へと進んでいきますように。一人ひとりの人生をひっくり返すほどの、新しい命の働きとなりますように。主よ、信じる者を祝福してください。そして私たちが“終わりの時”に近づいているのを見るゆえに、もっと強く帯を締め直すことができますように。

主よ、私は今夜、前回ここに来た時より七つ年を重ねています。

あるいは、最初に来た時よりも。いつの日か、私はこの道の終わりにたどり着きます。私はずっと以前から、あなたにこう祈ってきました。「主よ、あの川辺に着く朝、霧が押し寄せるその時、どうかその渡し場で困ることがありませんように。私は滞りなく向こう岸へ渡りたいのです。」だから私は今、あの場所で何も問題が起こらないように、今のうちに正しいことを正しくしておきたいのです。

あの日——この町の多くの方々が、その渡し場に集まるでしょう。だから、今この時に、自分を省みることができそうです。

そして父よ、もし私が最後の説教を語り終え、最後の病人のために祈り終えたあと、主がまだ来られなければ——私はきっと老いて震える男になり、杖をつきながら立っているでしょう。ブラナムの家系はみな、そのようにして人生を終えますから。多くの友はすでに向こう岸へ旅立ち、私の頬には、あちら側から吹いてくる“霧”が触れ始めている。最後の丘を越え、最後の戦いを終えたとき、

私はこうしたいのです。兜を脱ぎ、それを岸に置き、この古い剣——神の御言葉を、永遠という鞘に差し戻し、両手を高く上げて叫ぶのです。「父よ!」その時、主よ——どうか“救いの舟”を押し出してください。私は向こう岸へ渡りたいのです。だから主よ、今この戦いの最中にある私を助けてください。忠実に、私の持ち場に立ち続けられるように。リード兄弟、リード姉妹、この教会にいるすべての方々、そしてこの地方にいる病める者、弱っている者を祝福してください。それは私がここにいるからではなく、あなたの御子、主イエス様ご自身がここにいらっしゃるからです。どうかその御臨在が人々を呼び寄せ、偉大なしるしと不思議が行われますように。集会が終わった後も、リバイバルが続きますように。そして私たちは、自分が取られた塵に顔を伏せ、すべての栄光をあなたにお返しします。これらすべてを、愛する主イエス・キリストのお名前によって祈ります。

アーメン。

10 さて、ここで少しだけ聖書を読み、

いくつかのことを分かち合いたと思います。

ここに時計を置いておきますね。

皆さんを長く引きとめたくありませんから。

私の住んでいるところの時間とは少し時差がありますので、

つい遅くなってしまうのです。

では、ヨハネによる福音書4章を、
14節あたりから少し読みたいと思います。

有名な――

イエス様とサマリヤの女の対話のところです。◆ ヨハネ 4:14-19(朗読部分) ◆

「しかし、わたしが与える水を飲む者は、

いつまでも渇くことはありません。

わたしが与える水は、その人のうちで、

永遠のいのちへと湧き上がる泉となるのです。」

すると、その女は言いました。

「主よ、その水を私にください。

もう渇くことがなく、

ここまで水をくみに来なくてすむように。」

イエス様は言われました。

「行って、あなたの夫を呼んで来なさい。」

その女は答えました。

「私には夫はおりません。」

イエス様は言われました。

「その通りです。

あなたには夫がないと言いましたが、

あなたにはこれまで五人の夫がいました。

そして今あなたと共にいる男は、

あなたの夫ではありません。

あなたは本当のことを言いました。」

するとその女は言いました。

「主よ、私はあなたが“預言者”であると感じます。」

11 そして次に、

ヨハネによる福音書5章19節あたりを読ませていただきます。◆ ヨハネ 5:19-20(朗読部分) ◆

そこでイエスは彼らに言われた。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。

子は、自分からは何ひとつすることができません。

父がしておられることを見て、その通りに行うだけです。

父がなさることは、すべて子もそのように行います。」

「父は子を愛しておられ、

ご自身のなさることをすべて子に示されます。

そして、これよりもさらに大いなるわざを

あなたがたに示されるでしょう。

それを見て、あなたがたは驚くことになるのです。」

そしてヘブル13章8節には、こう書かれています。

「イエス・キリストは、昨日も今日も、

そして永遠に変わる事のない方です。」

どうか神が、この御言葉に祝福を加えてくださいますように。

さて今夜は、私たちのテーマ、私たちの思い、心、

そして私たちが生きる目的そのすべてである

イエス・キリストについて、

少しお話ししたいと思います。

そのお方のご性質や、

この聖書が証する“イエス様とはどのようなお方か”についてです。

最近、ある人がこう尋ねました。

「ブラナム先生、なぜあなたは“神の癒し”を教えるのですか？」

私はこう答えました。

「私は神の癒しを信じているからです。

そしてそれは神の御言葉の中に、

はっきりと証しされているからです。」

私は、聖書によって健全に、理性的に、

神の癒しが真実であることを証明できると信じています。

そして皆さんが驚かれるほどのことですが——

私はこれまでの年月の間、

呪術、仏教、あらゆる宗教、あらゆる異端、

悪霊の攻撃を受けてきました。

世界中どこへ行っても、それらが立ちはだかったのです。

しかし、友人たちよ——

神の助けによって、

そのどれひとつとして勝利したものはありませんでした。

その場で打ち砕かれました。

なぜなら、

神の御言葉は、どんな時にも勝利するからです。

私が本をお読みになることをすすめるのは、
そこに書かれている出来事が
すべて“真正(ボナファイド)”だからです。
事実の裏付けがあり、
必要ならすべてを確認することができます。
私はこれまで、一度も恐れたことはありません。
なぜなら、
神が私を“病める者のために祈る”働きに遣わされたと確信しているからです。
主が遣わされたのなら、
その働きに出ている間、
守ってくださるのは
神ご自身の責任です。
そして、神は必ずそれを行われます。
私は一度たりとも、
自分を“神の癒し主”だと名乗ったことはありません。
そんな者ではありません。
この中のどなたも、そうではありません。
“神の癒し主”という人間は存在しません。
あのイエス・キリストでさえ、
ご自分を“癒し主”とは言われませんでした。
主はこう言われました。
「わたしの内に住まわれる父が、そのわざをなさるのです。
わたしは自分では何もしません。」
ですから、
もし「私は神の癒し主です」と名乗る者があるなら、
その人はただ、
人々を欺いているに過ぎません。
そして、
「自分の力であなたを助けられる」
と言いながら、
キリスト以外のものへ導こうとする人がいれば、
その人は誠実ではありません。

そして、私たち伝える者ができる唯一のことは、
ただ カルバリーを指し示す ことだけです。
あなたの救いは、
5年前、10年前、20年前——
“その時”に起こったではありません。
あなたはその時に「救われた」のではないのです。
そうではなく——
あなたの救いは、1900年前、
イエス様がカルバリーで命を捧げられた時に
すでに成し遂げられていたのです。
主はその時、
世の罪すべてを取り除かれました。
あなたが救いを「受け入れた」のが何年前であったか——
それはただ、あなたがそれを“自分のものとして受け取った”時です。
けれども、
神が罪のために、そして病のために
なすべきすべてのことは、
すでにカルバリーで成し遂げられているのです。
ですから、
伝道者にできる唯一の務めは、ただひとつ——
「神がすでにキリストのうちに成し遂げられたこと」を
あなたに指し示すことです。
分かりますか？
ある人が祭壇に来て、一晩中祈ることもできます。
泣き、叫び、歩き回り、
償いをしようと努力し続けることもできます。
しかし——
彼が“信じて受け入れる”その瞬間まで、
彼はなお罪人のままなのです。
なぜなら、ヘブル3章にはこうあります。
「イエス・キリストは、私たちの“告白”の大祭司である。」
“Profession(プロフェッション)”と訳される言葉は、
同じ意味で“confession(告白)”です。

つまり、私たちが

「主がすでに成し遂げてくださった」

と告白しなければ、

主は大祭司として働くことができません。

しかし私たちが告白するなら——

主は大祭司として働き、

私たちの告白の通りに、

贖いの中に含まれているすべての約束を

実際のものとしてくださるのです。

それが、

「主は私たちの背きのために刺し通され、

私たちの不義のために砕かれ、

その懲らしめによって私たちに平安が与えられ、

主の打たれた傷によって、私たちはいやされた。」

と書かれている意味です。

“いやされるであろう”でもなく、

“いやされるはずだった”でもありません。

「いやされた」——(過去形)なのです。

カルバリーで神がすでに成し遂げられたのです。

私たちがすべきことはただひとつ。

信仰によってその手を伸ばし、受け取ること。

そして、信じて告白すること。

13 さて、ここにおられるあなたの牧師——リード兄弟は、

あなたをカルバリーへと指し示すことができます。

それが牧師の務めです。

しかし、それ以上のことはできません。

神は、牧師の働きの後に、

教会の中へいろいろな賜物を置かれました。

しるしを伴う奉仕、

異なる働きを通して御言葉を指し示す賜物……。

けれども——

どんな人間の中にも、「他の人を癒す力」などありません。

私の中にもありません。

ほかのどんな人にもありません。

そして、皆さんに気づいていただきたいのです。

私はこう信じています。

「神は今夜、この部屋の中に、

自分の手に当たっている光と同じほど“はっきり”存在しておられる。」

あなたはそう信じますか？

では、まずは揺らがない土台をしっかりとつかんでください。

神のいやしはキリストの中にあり、

その主イエス様は、

今あなたに当たっている光のように“近くに”、

“ここに”おられるのです。

主は無限のお方、

永遠のお方。

初めから終わりまでをご存じのお方です。

(録音の空白)

それなのに――

悪魔は、この素晴らしい“神の癒し”の真理とするしを、

なんとかしてねじ曲げようと必死に戦ってきました。

いつの日か、

教会はようやく目を覚まし、こう気づくでしょう。

「救いの次に偉大な祝福を、

自分たちは長い間、拒んでしまっていたのだ」と。

私はアフリカで、何度もこうした光景を見ました。

宣教師が彼らにこう言うのです。

「奇跡の時代はもう終わりました。」

すると、その可哀想な人々は――

泥でつくった偶像を抱えて歩き回り、

“癒し”を求めます。

しかし彼らは知っていました。

「自分の父たちは、その泥の偶像を信じた時、

神がその“無知”をあわれんで癒してくださった」ということを。

しかし今日、

多くの牧師や教会の神学が、

神が病を癒す力を否定してしまっているのです。

14 さて、皆さん、よく聞いてください。ある日のことを想像してみましょう——たとえば「電気」の話です。500年前の人に、「将来、人はこのような電灯を持つようになる」と言ったら、どう言われたと思いますか？「そんなことを言うなんて、頭がおかしい」と、きっとそう言われたでしょう。しかしある時、ひとりの男が心の奥でこう信じたのです。「私は、この“電気”というものをつかまえることができる。」そして彼は風をあげ、鍵をつけ、空から電気を“つり上げた”のです。

電流が糸を伝って瓶の中に流れ込むと、彼はそれをふさぎ込みました。

そして叫びました。「つかまえたぞ！ つかまえたぞ！」彼はたしかにつかまえたのです。しかし——何を手にしたのか、彼自身は分かっていませんでした。

これが今日の教会に起きている問題なのです。

「教会は“何か”を持っている。

だが、それが何なのか分かっていない。」

彼は叫ぶことができました。

「ここにある！ 感じるんだ！ 自分はこれを手にしたんだ！」

と。

けれども——

それを“どう使うか”を知らなかったのです。

その後、ベンジャミン・フランクリンの後に、

トーマス・エジソンが現れました。

彼はこう信じたのです。

「この電気で、私は光を生み出すことができる。

そして人々を助けることができる。」

その内側には、

「できる」という何か確かな声がありました。

エジソンは机に向かい、

何万本というワイヤーを使い、

電流がその一本を通るように、何度も何度も試しました。

眠らない夜を何度も越え、

人々からは「気が狂った」とさえ言われました。

しかし——

彼の内側には、はっきりとした確信があったのです。

「電気は“光る”。

必ず光るようにできる。」

15 そして——

心の奥に「できる」と語りかける何かがある限り、

必ずそれに応える“何か”が外側にも存在するのです。

これが“深きが深きを呼ぶ”ということです。

私はよくこう申し上げます。

「魚の背中に“ヒレ”がつく前に、

まず魚が泳ぐ“水”が存在した。」

もし、この心の深みに

「求める声」があるなら、

必ずその声に応える“何か”が存在するのです。

私がこの働きを始めたばかりの頃、

こんな話を讀んだことがあります。

ある赤ちゃんが、

鉛筆の消しゴムを食べたり、

自転車のゴムのペダルをかじったりするので、

医者が調べてみたところ――

その赤ちゃんの体には“硫黄”が必要だったのです。

そして硫黄は、ゴムの中に含まれています。

赤ちゃんの体はもともと

“地の塵”から造られたもので、

その地には硫黄が含まれています。

もしこの赤ちゃんの体が

「硫黄を求める」と叫ぶなら――

その叫びが存在する前に、

すでに“硫黄という現実の供給源”が

どこかに存在していなければなりません。

そうでなければ、

硫黄を求めるといふ“叫び”そのものが

存在するはずがないのです。

16 ですから――

もし心の深みで“深きが深きを呼ぶ”ならば、

必ずどこかに、その呼びかけに応える“深み”が存在するのです。

ダビデが言ったように。

そしてもし、

あなたの心の深みに

「もっと神を知りたい」

「もっと神の臨在を味わいたい」

という叫びがあるなら——

必ず、どこかに“もっと豊かな神”が存在しているのです。

もし心の中に、

「神の癒しを信じたい」

という渇きがあるなら——

必ずどこかに“癒しの泉”が開かれているのです。

創造物が存在するためには、

まず“創造主”が存在しなければなりません。

そうでしょうか？

そして今夜、

あなたの心の中に“癒されたい”という渇きがあるなら——

その渇きを造られたのは“神ご自身”です。

神がその渇きを置かれたのなら、

その渇きに応える“癒しの泉”が

必ずどこかに開かれているのです。

分かりますか？

エジソンは、

何千ものワイヤーを試し、

何度失敗してもあきらめませんでした。

なぜなら、

心の深みにこう語りかける“何か”があったからです。

「必ず光るワイヤーがある。

必ずできる。」

だから——

今、私たちは電灯の明かりを見ているのです。

そして友よ、

私がキリスト者になってこの二十年間、

ずっと信じてきたことがあります。

「神は、この手に当たる光と同じくらい“現実の存在”である。」

そして、

今夜この部屋には、

病人を皆癒し、
盲目の目を開き、
耳を開き、
足の不自由な者を鹿のように跳ねさせ、
罪人を救い、
信じる者すべてを聖め、
聖霊で満たすほどの“神の力”が
満ちているのです。」
主はここにおられます。
これ以上ないほど“現実”に。
あとは——
あなたにその“力”を届ける
一本のワイヤーを見つけるだけです。
そして私は、
聖書を二十年研究し、
主の御使いと語り合い、
導かれてきた中で、
はっきりと二つのことを見出しました。
それは——
「愛」と「信仰」です。
あなたが
混じりけのない真実の“愛”をもって神を愛するなら、
そこには必ず 信仰 が伴います。
愛と信仰がひとつに結ばれる時——
あなたは願うものを求めてよいのです。
それは必ず与えられます。
なぜなら、
あなたの天の父は、
一つも偽りを語らないお方 だからです。
もしあなたが心から信じ、
願うことが自己中心でなく、
神の栄光のためであるなら——
そして、

“父は決して私をだまさない”

という確信を少しも疑わないなら、

必ず何かが起こります。

すべての雑草(コックルバー)を片付け、

まっすぐにカルバリーを見つめ、

心の底から信じることができれば。

さて、イエス様は地上を歩かれた時、

いつも良いことをしておられました。

では、今夜――

「主イエスを見たい」と思う人はいますか？

手を挙げてみてください。

……ええ、皆さんですね。

当然です。

誰だって、そうでしょう。

17 では今夜、聖書の中でイエス様をお探しする前に――

まず、探し方の土台を心にしっかり置いておきましょう。

何か、ある人を探するとき、

その人がどんな方なのか“一般的な特徴”を知っていなければ、

探しようがありませんよね？

その通りでしょう？

聖書はこう約束しています。

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも同じ方です。」

そうですね？

皆さん、この言葉が真実だと信じますか？

靈感によって書かれたと信じますか？

私は、心からそう信じます。

ですから――

もしイエス様が“昨日も今日も、永遠に同じ方”であるなら、

今日この地上にも“同じイエス様”が

以前と同じように、そしてこれからも同じように

おられなければなりません。

その通りですね？

では、主ご自身が何と言われたか、見てみましょう。

主はこう言われました。

「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

なんと愛らしい言葉でしょう。

「世の終わりまで、

わたしはあなたがたと共にいる。」

そしてさらに、聖書はこう語っています。

「しばらくして、世(不信者)は、もうわたしを見ない。

しかし、あなたがた(信じる者)は、わたしを見る。

わたしはあなたがたと共におり、

あなたがたのうちにおり、

世の終わりまで共にいるからである。」

皆さん、これを信じますか？

18 では、ここで――

イエス様そのお方を、しばらく見てみましょう。

「主はどこにおられるのか？」

主はこう約束されました。

「わたしはあなたがたと共におり、

あなたがたのうちにおる。」

ということは、

イエス様は“ご自分の教会、ご自分の民のうちに”

ご自身を現されるということです。

そうでしょうか？

確かにその通りです。

では、イエス様が“ご自身をあらわす”と言われた以上、

私たちはまずこう尋ねなければなりません。

「では、イエス様とはどのようなお方だったのか？」

主がどんな性質を持ち、

どんな働きをし、

どのように人々と接しておられたのか――

その“お姿”を聖書で確かめれば、

今日、主がどこにおられるのか、

どのようにご自身を示されるのか、

私たちにも分かるはずです。

ですから、

主のご生涯を、少し調べてみましょう。

何をなさったのか。

どのように現れたのか。

それを見ていけば、

「主は今、私たちと共におられるのか」

「本当に今日も同じ姿で働かれるのか」

が分かるのです。

19 さて、聖書の時代のイエス様を見てみましょう。

主は、ご自分に

大それた肩書きや名声を求めることはなさいませんでした。

とても謙遜なお方でした。

しかし――

必要とあれば、

はっきりと真理を語られるお方でもありました。

ヘロデに語られたあの言葉を思い出してください。

パリサイ人たちに語られた厳しい言葉もそうです。

縄を編み上げて鞭をつくり、

聖殿から不正を働く者たちを追い出された時、

主は彼らを

「偽善者」「毒蛇のすえ」と呼ばれました。

ヘロデのことは

「あの狐め」とさえ言われました。

しかしそれでも、

その内側は限りない謙遜に満ちた、

柔らかく、へりくだったお方であったのです。

そして主は、

できる限りの善を、

出会うすべての人に行われました。

私は、そんなイエス様のお姿を心に描きながら読み進めています。

では、

主の働きの初めの頃 に目を向けてみましょう。

イエス様は、少し名が知られ始めた頃、

福音を宣べ伝える旅に出られました。

二日、三日と説教される中で、

ピリポという名の男性が、

その御言葉によって回心しました。

ピリポはもう大喜びでした。

この世でこれほど素晴らしいものはない、と感じたのです。

そして――

確かに彼は、“世界で最も尊いお方”を見つけたのです。

嬉しくて、嬉しくて、

黙っていることができませんでした。

そこで彼は、

親しい友人 ナタナエルを探しに行きました。

そしてこう言ったのです。

「ナタナエル！来てみてほしい。

わたしはついにお方を見つけたんだ。

ヨセフの息子、ナザレのイエスを！」

20 さて――ここからが大事なところですよ。

ナタナエルは、

とても堅実で、厳格なヘブル人でした。

“正統派”と言ってよいほどの人物です。

だから彼はこう言ったのです。

「ナザレから、何か良いものが出るだろうか？」

するとピリポは、

議論をしようとせず、ただこう答えました。

「来て、見てごらん！」

――なんと美しい返事でしょう。

さて、私はその光景を心に描きます。

イエス様は祈りの列に立ち、

病める人々のために祈っておられます。

その時、

ピリポとナタナエルが

ゆっくりとこちらに歩いてきました。

おそらくピリポは、

ナタナエルを前に立たせたことでしょう。

“主とナタナエルを直接会わせたい”

そんな思いだったに違いありません。

そして――

ナタナエルがイエス様の近くにきたその瞬間。

イエス様は顔を上げ、

彼を見つめ、こう言われました。

「見よ、まことのイスラエル人だ。

そのうちには偽りが無い。」

ああ、なんという言葉でしょう！

もし今日の私たちの言葉で言うなら、

「ここに一人の真のクリスチャンがいる。

正直で、誠実な、偽りのない人だ。」

そう言われたのと同じ意味なのです。

21 その言葉は、

この厳格なヘブル人である礼拝者を
まったく驚かせました。

ナタナエルは思わずこう言いました。

「ラビ…(先生)、

どうして私をご存じなのですか？

あなたは私を知らないはずです。

私を見たこともないのに、

どうして私のことが分かるのですか？」

するとイエス様は静かに答えられました。

「ピリボがあなたを呼ぶ前、

あなたが木の下にいた時、

わたしはあなたを見ていた。」

もしこれが 1953年 の出来事だったら――

人々は何と言ったでしょう？

「それは超能力だ！」

「テレパシーだ！」

「心を読む力だ！」

と、きっとそう言ったはずですよ。

実際、当時のヘブル人、
とくに“正統派のユダヤ人”たちも
まったく同じことを言いました。
主が人の心の思いを知っておられることだけは、
否定できませんでした。
だからといって、
彼らは信じたくなかったのです。

- 22 ある日、誰かが私にこう言いました。「ブラナム兄弟、
あなたはイエス様が“読心”をしたと言うのですか？」もちろん、そうです。
主は人々の“思い”を知っておられました。呼び方はあなたに任せましょう。
何と呼んでも構いません。ただし、私が言っているのは、
この世でよく見かけるようなものではありません。手を差し出させ、
そこに並ぶ輪や線を読み取る——あんなものことではありません。

あれは悪魔の働きです。しかし、よく覚えておいてください。悪魔が持っているものは、すべて“神の本物を真似た模造品”なのです。世の中には、偽善者もいれば、悪しき行いをする者もいます。しかし、彼らが持っているものは、

元々は神のものを歪めてつくった“偽物”なのです。そうでしょうか？

- 23 さて、よくご覧ください。
ナタナエルがイエス様の前に来たとき、
主が彼を見抜かれたその出来事は、
彼を本当に驚かせました。
しかし、その時代のヘブル人たち——
特に律法に精通した人々の反応こそ、もっと不思議でした。
彼らは“堅実”で、
“著名で”、
“敬虔で”、
“聖書に熟達した”男たちでした。
彼らの生活に
「これは不敬虔だ」と言えるような点は
ほとんどありませんでした。
昼も夜も、
食べることも、眠ることも、
すべてを律法と共に生きることに捧げていたのです。

多くはレビ族の者で、
代々その家系の長き伝統を持ち、
巻物と律法を受け継ぎ、
それを日夜学んでいました。
そんな彼らでさえ——
目の前に立っておられる神の御子を
認めることができなかつたのです。
そして、昔がそうであつたように、
今日も同じことが起きています。
彼らは分かつていました。
イエス様が、
人々の心の中で考えていることを知っておられる ことを。
主が、
彼らの行い、
彼らの生涯、
彼らの病、
すべてをご存じであることを
否定できませんでした。
その事実は動かせなかつたのです。
本来なら、
聖書に照らしてそれが「神の御子のしるし」であることを
認めるべきだつたのに——
彼らが出した結論はこうでした。
「彼はベルゼブルだ。
占い師たちの頭、
すべての悪霊の中の最も大きな悪魔だ。」
そう言つたのです。
その通りでしょう？
24 ところが——
悪霊たちはどう言つたでしょう？
彼らは主に向かつてこう叫びました。
「私たちはあなたが誰か知っています！
神の聖なる方です！」

さて、どちらが正しかったのでしょうか？

“宗教的な指導者たち”なのか？

それとも“悪霊たち”なのか？

この場合、

正しかったのは悪霊たちのほうでした。

パウロとシラスが町を通った時のことを思い出してください。

上の方にいた“宗教家たち”——

牧師、教師たちはこう批判しました。

「あいつらは問題を起こす者だ。」

「世界をひっくり返している異端だ。」

ところがその通りを歩くと、

街角に座った、

悪霊に取りつかれた占い女 が叫んだのです。

「この人たちは、

いと高き神のしもべで、

救いの道を教える人たちです！」

その場合、

悪霊の言葉のほうが正しかった のです。

ところが宗教家たちは、

イエス様をこの“悪魔のカテゴリ”に入れてしまいました。

なぜでしょう？

霊が近いからです。

聖霊と悪霊は、外から見ると“超自然”という点で似ているため、

肉の目では識別できないのです。

しかし彼らは、

聖書に照らして真理を判断しようとせず、

自分たちの神学に合わないからという理由で、

すべてをごちゃ混ぜにして捨ててしまった のです。

よく見てください。

イエス様はそこに立っておられました。

そしてナタナエルは驚きのあまり叫びました。

「どうして私をご存じなのですか？」

主は穏やかに言われました。

「ピリポがあなたを呼ぶ前、
あなたが木の下にいた時、
わたしはあなたを見た。」

もしナタナエルがこう言っていたらどうでしょう？

「ちょっと待ってください。
数日間このことを調べさせてください。
牧師に相談します。
聖書で調べてみます。」

きっと——

今日私たちが読んでいるナタナエルの物語は
まったく違うものになっていたことでしょう。

25 ナタナエルは、その場にひれ伏しました。

そして叫びました。
「ラビよ、あなたこそ神の御子、イスラエルの王です！」

彼の心は柔らかく、
受け入れる準備が整っていたのです。
「あなたは神の御子、イスラエルの王です。」
さて、今夜読んだあの箇所——
イエス様がエルサレムからエリコへ向かわれる途中の出来事に移ります。
聖書はこう言います。

「主はサマリヤを通って行かなければならなかった。」

地図を見ると分かります。
エリコはこちら、サマリヤはずっと上のほう。
“通らねばならない” という道ではありません。

それでもイエス様は
その道を通らなければならなかった。

なぜでしょう？

昼の十一時頃——
一人の 罪深い生き方をした女 が井戸へやって来ました。

イエス様は弟子たちを町へ遣わされました。

なぜでしょう？

その女が来ることを知っていたからです。
ほかの女性たちは朝の早い時間に水を汲みます。

しかし彼女は人目を避けるため、
昼の暑い時間に一人で来たのでしょう。
あるいは、
一晩中放蕩の生活をして、
そのまま遅い時間に起きて来たのかもしれませんが。
いずれにせよ――
彼女はイエス様が待つ井戸に来たのです。
イエス様は彼女を見ると、こう言われました。
「わたしに水を飲ませてください。」
ここで、私は心にイエス様の姿を描きます。
優しいまなざしで、こう言われるのです。
「わたしに、飲み水をください。」
彼女は驚き、
言葉を返しました。
「あなたはユダヤ人でしょう。
わたしたちサマリヤ人とは、
ふつうお付き合いになりません。」
イエス様は言われました。
「もしあなたが、
今あなたと話している者が誰であるか知っていたなら、
あなたのほうから“水をください”と願ったでしょう。
わたしは、あなたが汲みに来なくてもよい“いのちの水”を与えます。」
イエス様は、
彼女の心に気づかせる“別の答え”を示しておられたのです。
彼女は言いました。
「その井戸は深いのに、
あなたはくみ出す器も持っておられません。」
イエス様は言葉を続けられました。
何をしておられたのでしょうか？
彼女の霊に触れておられたのです。
彼女は不思議そうに主を見つめました。
するとイエス様は、
突然核心に触れる言葉を言われました。

「行きなさい。あなたの夫を呼んできなさい。」

これこそ、

彼女の抱えていた深い問題でした。

彼女は答えました。

「わたしには夫がおりません。」

イエス様は言われました。

「あなたには夫がないと言ったのは正しい。

あなたには五人の夫がいた。

今あなたと一緒にいる男は、あなたの夫ではない。」

その瞬間、

彼女は悟りました。

「あなたは預言者だとお見受けします。」

26 彼女は町へ走り込み、

男たちを呼び集めました。

そして叫びました。

「来てみてください！」

わたしのしたことを何もかも言い当てた方がいます！」

実際には、

イエス様は“ただ一つのこと”を言われたただけでした。

しかし――

もし神がひとつの事柄を主に啓示できるなら、

すべての事柄を啓示することもおできになる。

その通りでしょう？

彼女は続けました。

「来てください！」

わたしのすべてを言い当てたこのお方を。

この方こそ、キリストではありませんか？」

すると男たちは町から出て来ました。

イエス様は彼らのもとへ行き、

しばらくの間、御言葉を語られました。

彼らはすぐに気づきました。

その教えが、他のどんな人のものとも違っていることを。

そしてこう言いました。

「私たちは信じます。

このお方こそ、まことにキリストだ。」

さて、ここでもう一度注意深く見てください。

ここにおられるイエス様——

あなたは、

神の御子、処女から生まれ、

憐れみと慈しみに満ちた、尊い御方であることを信じますか？

これから、

そのイエス様の“ご自分への制限(limitations)”を

少しお見せしたいのです。

27 では、ここをよく見てください。

もう少しだけ、この場面にとどまってみましょう。

イエス様はある日、

ヘブル語で ベテスダ と呼ばれる池のほとりへ行かれました。

(願わくは、私も数週間後その柱廊に行ってみたいと思っています。)

この池の周りには、

病弱な人々が大勢 寝そべっていました。

足の不自由な人、

歩けない人、

盲人、

手足の枯れた人——

“水が動くとき”を待ち続けていたのです。

天使が時々降りてきて水をかき混ぜ、

その時に 最初に入った者は、どんな病でも癒された からです。

さあ、ここにイエス様が来られます。

少し“情景を描いて”みましょう。

そこには——

水頭症で頭が大きくなった赤ん坊を抱えたお母さん。

関節炎でしわがれた指をしたお父さん。

目の見えない老母が、苦しみながら叫んでいます。

聖書の歴史や『フォックス殉教史』、

あるいはヨセフスの記録を読んだことがあるなら、

その光景がどれほど悲惨だったか分かるでしょう。

人々は 最初に水に入るために、
互いを刺したり突き飛ばしたりするほど必死 だったのです。
最初に入った者だけが、
どんな病でも癒される——
それを彼らは信じていました。
中には笑い者にする者もいました。
「風が回り込んで水が揺れただけだ」
しかし多くの人々は、
それが天使の働きだと信じていました。
そして私もまた、
あれは天使だったと信じています。

28 人々は次々と池に入っていました。罪によって墮落し、病が世界に入って以来、神はいつの時代にも“癒しの道”を備えてこられました。青銅の蛇が掲げられた時代もあり、杖が用いられた時代もあり、預言者が立てられた時代もあり——

いつの時代も、人が神の癒しに触れうる“道”があったのです。ベテスダでは、
水が揺れ動き、天使によってかき回され、そのとき最初に入った者が癒される
——そのように備えられていました。そして、その痛々しい光景のただ中に、

イエス様が来られたのです。インマヌエル——「神が私たちと共におられる」お方。「神はキリストにおいて、この世界を御自身と和解させられた」

その通りの姿で、父なる神ヤーウェが御子イエスのうちに住まわれ、
池のそばを歩いておられたのです。あなたは信じていますね？

主が愛に満ちておられたことを。主が深いあわれみに満ちておられたことを。

では——ここをよくご覧ください。イエス様は、よろよろとした老父のそばを通り過ぎられました。彼は体が枯れ、悲鳴を上げ、助けを求めていました。

それでも、イエス様はその人のそばを通り過ぎられたのです。

主の衣には“力(徳)”が満ちていたのに——その人のところには向かわれませんでした。水頭症の赤ん坊を抱えたあの母親のそばも、ただ通り過ぎられました。

盲目の老母が「助けてください!」と泣き叫んでいました。

それでも——主はその人のそばを通り過ぎられました。

29 彼は、その多数の人々の中で、パレットの上に横たわっている人のところに来るまで、彼の道を進みました。アーメン。そうです! パレットの上に置く。そして今見てください。基調講演があります。そして、イエスはこの場合、彼が長い間いたことを知っていました。もし彼が思いやりを持っていたのなら、なぜ彼はそれらの貧しい人々、足の不自由な人、立ち止まる人、盲目の人、しおれた人、水の悩みを待っている人を捕まえなかったのでしょうか。愛、思いやりに満ちている。そしてそれらのすべてを通り過ぎます。

私は救世主を...あなたの前ではかなり暗く見えましたね。ちょっと待ってください。聖ヨハネ5章を読み続けてください。理由がわかります。もし彼が愛に満ちていたなら、彼は憐れみを持っているように見えます。もし彼が憐れみを持っていたとしたら、彼はそれらの人々の何人かを癒していたように見えます。彼らの目は神の真理を知らないのです、それは神の癒しの批評家が今日見ることができないところです。

30 彼らは言いました、「彼にここに行ってこれを癒してもらいましょう。彼をここに行かせてください。」[不明瞭な言葉]私たちの素敵な主についても同じことを言いました。

通知してください。彼はこの男がパレットの上に横たわっていたところに来るまで、彼は道を進んでいました。彼らは言いません、「彼は38年の間虚弱でした。なぜ、私が赤ん坊の時に彼はその弱さを持っていたのです。それは遅れました。」彼は前立腺の問題を抱えていたのかもしれませんが、何か別の問題を抱えていたのかもしれませんが。それは……前立腺の問題かその順序で何かを言ってみましょう。TB。それは遅らせられ、彼を殺すつもりはありませんでした。彼はそれと一緒に38年間住んでいて、そこにパレットの上に置いていました。そして、イエスはその一人の人のところに来ました。足の不自由な人、立ち止まる人、盲目の人、またはしおれた人ではありません。しかし、その一人の男に来て、「あなたは完全にされるのですか?」と言いました。そうですか?

数千人に1人。「あなたは完全にされますか?」

彼は「私を水に入れる人がいない」と言いました。

彼は言った、「あなたのベッドを取り、あなたの家に行きなさい」。彼はパレットを包み、仰向けに置いて離陸した。

31 ユダヤ人は彼を見つけ、彼に質問し始めました。彼らはイエスを手に入れ、彼に質問しました。これが彼の言ったことです(聖ヨハネ5:19)。なぜなら、父はこれまで働き、御子はこれまで働いていたからです。」そうですか?

32 神が何が行われているかについてのビジョンを彼に示されるまで、彼は彼自身の中で何もしませんでした。それは彼自身の言葉です(聖ヨハネ5:19):「まことに、まことに、私はあなたに言います、御子のご自身で何もすることができません。そして、彼はあなたがこれよりも大きなことをあなたに示し、あなたが驚かされるかもしれません。」言い換えれば、その人が癒したのは糖尿病、または前立腺の問題、またはそれが何であれでした。

さて、彼がその一人の男のために行った時を見てください。彼にはビジョンがありました。ラザロが死んだとき、彼を見てください。ラザロが死ぬことを知ったとき、彼は町を去りました。彼らは彼のために送りました。彼は別の日の旅に出ました。彼らは彼のために送りました。彼は別の日の旅に出ました。そしてある日、ビジョンがほぼ実現したことを知ったとき、彼は立ち止まり、「まあ、私たちの友人のラザロは眠っています」と言いました。

そして弟子たちは「彼はよくやる」と言いました。

彼は言いました、「彼は死んでいます。そして、あなたのために、私はそこにいなくてよかったです。しかし、私は彼を起こしに行きます。」アーメン。

なに? 神は何が起こるかを彼に示されました。何が起こるかを彼に示しました。「私は彼を起こしに行きます。」

マルタが来て、道で彼に会いに来たとき、彼女は言いました。「主よ、あなたがここにいたら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。しかし今でも、あなたが神に求めるものは何でも、神はそれをなさるでしょう」と分かります。イエスはラザロを目覚めさせようとしていることを知っていました。神はすでに彼を示しておられたからです。そして、彼は父が彼にするように示された事以外何もしませんでした。そうですか? それが彼自身の言葉です。

33 ええと、もし彼が昨日、今日、そして永遠に同じであるなら、彼は彼の教会で昨日、今日、そして永遠に同じように働いています。そうですか? 彼は父が示すことをします。

あるいは、昔の預言者たち、彼らの何人かは言いました…。エリヤを見てください、80歳近くまで生きていたと思います。そして、彼はこの間ずっと4つの奇跡だけをしました...または、8つ(そのような何か)。彼はやっただけ...

ある男性が私に言ったのは、少し前のことです。「なぜ、ブラナム兄弟、もしその力が地球に戻ったとしたら、彼はただ病院を通り抜けてみんなを育てることになるでしょう。」

私は「それはしました...決してしませんでした」と言いました。

彼は言った、「エリヤがそこに行って言ったときはどうですか」「ここに来て証明してください。神が誰であるかをお見せします。」

彼は、「もし私たちが今日世界に同じ神がそれをしているなら、エリヤの神が降りてくるでしょう」と言いました。

私は言いました「はいエリヤの神が預言者にそう言ったなら、彼は同じことをするでしょう。」

彼は言った、「エリシャはそれをした……」

私は言いました「いいえ彼は決して彼が犠牲を払い、物を整頓し、そのようなすべてをしたとき、彼はそこに出て行って、「主よ、私はあなたの命令でこれをすべてやりました」と言いました。」アーメン。「主よ、あなたの命令、あなたの言うことは私がすることです。」

34 そうすれば、今日の彼の教会にいるイエスは、あなたの信仰と同じくらい無力であり、あなたの信仰と同じくらい強力になるでしょう。彼は神が彼に何をするように言われたか、彼ができることに制限されるでしょう。そして、もしイエスが今夜ここにいたら、彼はあなたの前に立つかもしれませんが...あるいは、あなたが彼の前に立つなら、彼はあなたにあなたの人生を告げるでしょう。彼は何が起きているのか知っているかもしれません。彼はあなたが何をしたか、どんな罪があなたの人生であるか、あるいはそれがあなたに何が悪いのかを知っているかもしれません。しかし、あなたの癒しは神によってもたらされなければならないでしょう。そうですか？

さて、彼は昨日も今日もそして永遠に同じです。彼は今日彼の教会にいます。彼は自分の教会を整えます。

35 ここでしばらく前、数週間前...私はちょうどシェプリー兄弟とそこに座っている彼らにニューアルバニーメソジスト教会にいる小さな女性について話していました。そこでの兄弟はケンタッキーで一緒に育ちました。そして私はバプテスタの説教者であり、彼はメソジストでした。それで彼は言いました、「ビリー、もしあなたがただ降りてきて、そこにある私の小さな教会で一晩過ごしたら。(彼はそこに居場所があり、人々は通りに立っていました)、「私はあなたに人のために祈るように頼むつもりはありません。」と言いました。

そして、私が説教壇で始めたとき、彼は「ビリー、私はそれを取り戻すことができますか?」と言いました。「私はここに座っている日曜学校の先生の一人を迎えました。」と言いました。「彼女は精神的な問題だ」と言った。そして、「私は彼女ととてもひどい時間を過ごしました。」と言いました。と言いましたが、「彼女は素敵な人です」と言いました。「彼女は階段の一番下にいて、ただ手を置いてください」と言いました。私はしました。彼女のために祈った。

36 その数週間後、私は彼女に再び会いました。彼女は同じ形でした。ある日、聖霊が部屋に入ってきました。私は妻に「彼は今ここにいます」と言いました。

彼女は、「ニューアルバニーからその女性を呼んでもいいですか?」と言いました。

私は「彼女を呼んで」と言いました。

彼女が来てしばらくそこに着いたとき、私は彼女に少し話しました。そのように走っている小さな黒い車に気づき始めました。私は言いました。「小さな車が走っているのが見えます。車の事故に遭ったことはありませんか?」

彼女は「いいえ」と言いました。

私は言いました、「しかし、あなたは頭の悪い男と一緒にいて、ほとんど電車がそれにぶつかった」。

そして、彼女は彼女の声の一番上で叫び始めます。彼女は10年間精神科医に通っていました。そしてそこで、聖霊は彼女の夫が海外にいたとき、彼女が結婚の誓いと彼女がそのようにしたすべてに不誠実に生きていたことを彼女に話しました。彼女は言いました、「まあ、ブラナム兄弟、私はそれを神に告白しました。」

37 私は言いました、「あなたは神に対して罪を犯したことはありません。あなたは夫に対して罪を犯しまし

た。まず、彼と一緒にそれを正しくする必要があります。」

そして彼女は、「ああ、私は……」と言いました。

私は言いました、「それはあなたの魂の切妻の端に戻った、そして彼ら全員……」私は言いました、「彼らはあなたに1ガロンの油を注ぎ、蹴り、踏みつけ、そして悪魔を追い出すことができました。彼らが望んでいたように、あなたが原因を見つけるまで、それは治療法を見つけることが決してできません。最初に原因を見つけてから、治療法を得る必要があります。」何が問題なのですか。どこにありますか？

そして彼女は、「私は彼にそれを言うことができない」と言いました。

そして言った…私は「まあ、あなたはしなければならぬ」と言いました。私は「彼はシボレーの会社で働いていませんか？」と言いました。

「はい。」

「先日、ピンクのドレスを着ていた女性の作品があります。彼は緑のシボレー車に乗っていました。彼はあなたがしたのと同じ行為をしました。」私は、「彼を電話に出して、それが正しくないかどうか確かめてください」と言いました。

彼女は夫に電話しました、そして彼らはお互いに告白し、戻ってきました。悪霊が女性を去りました。彼女は今と同じくらい完全に正常です。

まず、原因を突き止めなければなりません。その後、治療法が来ます。

38 アップショー下院議員…皆さんは彼の癒しについて聞いたことがありますね。これらすべてのもの。ここで、私自身牧師だったミルタウンバプテスト教会の牧師であるウィリアムホール…アップショーの癒しの直後、私はその夜に来て、妻が私に言いました…私はアフリカに行くことを決めていました約6週間。私は礼拝のためにペンシルベニアに行かなければならませんでした。

そして私の妻は言いました、「ビリー、ホール兄弟が死にかけているのを知っていますか？肝臓にがんがありますか？」

そして私は「ああ、私の！」と言いました。私は「いいえ」と言いました。

「はい」と言いました。

私は言いました。「できるだけ早く群衆を取り除きますか。私は教会に行くと言ってください、そして私は彼らに日曜日に会うでしょう。」私は「降りてホール兄弟に会いに行きます」と言いました。

そして私はその兄弟に会いに行きました、そしてそこで彼はカボチャのように黄色く横たわっていました。そして彼は私を知っていました。私は「あなたの医者是谁ですか？」と言いました。

彼は言いました「博士ディルマン。」

さて、ディルマン博士は私の懐かしい友人です。ホール兄弟のために祈り、ディルマン博士に電話しました。彼は「ビリー、彼は死にかけている」と言った。

39 私は「ああ、ディルマン博士、それを聞くのは嫌いだ」と言いました。

「はい、私たちは彼をニューアルバニーの専門家に連れて行き、彼をX線撮影し、X線撮影しました。彼の肝臓には大きな癌の状況があります。」「彼はただ死ぬだろう、それだけだ」と言った。

それで私は翌日彼に会いに行きました。私は彼のためにもう一度祈りました。彼に会いに行った、そして…まあ、彼はちょうどとも低くなっていて、彼はほとんど呼吸することができませんでした。それでホール夫人が私についてきました。彼女は言いました、「ブラナム兄弟、あなたにできることが一つありませんか？」

私は言いました「シスターホールいいえ私にできることは祈ることだけです。」

彼女は言いました、「あなたは別の医者を知っていますか？」

私は言いました.... 'コース、彼らの医者のためのすべての人。私は言いました、「私には医者との友達がいて、私の隣に住んでいて、私から数ドア離れています。」私は言いました。「彼は私の懐かしい友達です。医者として、彼は元気だと思います。」私は「私たちは懐かしい友達です」と言いました。

手紙が来ました。彼はサービスについてアメリカ医師会に手紙を書いています。を見てください。それで、「彼に会ってほしい」と言いました。

サム・アデア博士に電話して、「先生、ホールさんに会いに行ってくださいませんか?」と言いました。

彼は言った、「まあ、ビリー、私はただ病院に行つてX線を読みます。」「私にできることはそれだけです。見てください。」

それで彼は降りてX線を読みました。彼は戻つてきて、「その男は肝臓に癌を持っています、ビリー、彼は死ぬでしょう」と言いました。

私は言いました「ああ私の!その女性を慰めるために何か専門家や何かできることはありませんか?」

40 彼は、「まあ、私は彼をレイビルのエイブル博士に送るかもしれませんが、そして彼はほぼ南国で最高の専門家の一人です。」と言いました。

それで彼らは救急車を手に入れ、外に出てホール氏(ミルトンバプテスト教会のホール牧師)を迎えに行き、彼をレイビルに連れて行きました。エイブル博士は彼を調べました。彼は戻つてきます。彼はホール夫人には言いませんでした。それで彼はアデア博士に電話してアデア博士に話しました、そして医者は私に電話しました。彼は「ビリー?」と言いました。

私は「はい」と言いました。

「あなたはあなたの友達を知っていますか、ホール?」と言いました。

私は「はい」と言いました。

「彼は4日で船外に飛び出すだろう」と言った。

私は言いました「ああ私の!私はそれを聞くのが嫌いです。」

「まあ、彼が説教者なら、彼は行く準備ができているべきです。」と言いました。

41 そして私は、「もちろん、それで大丈夫です」と言いました。私は言いました。「彼は行く準備ができていますが、彼が行くのを見るのは嫌です。彼はまだかなり若い男で、約55歳、58歳です。」私は言いました「彼は良い説教者です彼が行くのを見るのは嫌いだ。」

「まあ、私たちはみんな行くのが嫌いです、ビリー、でも行かなければなりませんでした。」と言いました。「あの男は4日でいなくなる」と言った。

私は「まあ.....」と言いました、そして私は降りてシスター・ホールに電話をしました、そして私は言いました、「シスター・ホール、アデア博士は言いました...アベルは彼が4日でなくなると言いました。」そして彼女は叫び始めました。今、彼女は私にとって年老いた母親のようです。

42 そして私は言いました「ほらシスターホール彼はクリスチャンです。彼はキリストと一緒にいるために、この古い肉体から脱落するだけです。私、なんて素晴らしいんだ!彼はとにかくいつか行かなければならない。」

彼女は言いました、「まあ、あなたは神に尋ねることができませんか?どこかにビジョンはありますか?」

私は「彼は私に一言も言ったことがない」と言いました。

さて、翌朝...私はその夜家に帰りました、そして車線の上下にたくさんの車があります。さて、後...私ができる限り多くの祈りを得ました。翌朝...言う、私はリス狩りから改宗したことがないので、私はまだリス狩りに行くのが好きです。それで私は古いライフルを持っていました、そして私はそれを拾い上げて部屋に置きました、そして私は言いました、「今朝の4時に(私は時計のアラームを設定するつもりです)、私は行きますとにかく一日休むためにリス狩りをしてから、そこに行つて戻つてきて、それらすべての会合のためにアフリカ

に行かなければなりませんでした。」

43 それで私たちは時計のアラームをセットしました、そして私は約12時間ベッドで這いました。3時か4時ごろ、警報…。とても眠くなり、年を取りました…ライフルを手に入れ始め、真ん中の部屋に向かって出発しました。私は目をこすりながらそこに出て、ホールライトがついていました。

見てみると、そこに小さな古い青リンゴがぶら下がっていました。私は言いました、「まあ、私の妻はその節のある見た目のものを何のためにそこに置いたのですか？」私はそのように見えました。なんで…？

そして、たまたまそれが壁にぶら下がっていないことに気づきました。それは宙に浮いていた。私はライフルを隅にすくい、ひざまずきました。そして、私がひざまずくと、虫食いで酸っぱくて節のある別の小さなリンゴが横に立っていました。そして、5人がそこに立つまで、もう1人ともう1人。それから、その大きなリンゴについての大きなリンゴが降りてきて、ちょうどそのような素晴らしいチョップを作り、それらの5つすべてを食べ尽くしました。そしてそれは消えました。私はたまたま気づきました…。皆さんは、主の天使の写真がここでのその討論の中で取り下げられたのを見ました(私たちは知っています)、そして彼らはそこにいるバプテストの人々が討論しようとしていました。彼はすぐに降りてきて、アメリカ写真家協会に彼の写真を撮らせました。それはワシントンDCにぶら下がっています、今までに証明された唯一の超自然的な存在が奪われました、見てください。だからそこに…そしてFBIエージェントと彼ら全員がそこにいて、彼らの封印とその下にあるすべてのものがあります。そしてそこに彼はそこに立っていて、宙を舞っていました。

私は「私の主は私に何をさせてくれるでしょうか?」と言いました。

「起きて、ウィリアム・ホールに言いに行きなさい、『主はこう言われる、『あなたは生き、死ぬことはないだろう』』と言いました。

44 ああ、その日はリス狩りはしていません。私はそれらの古いオーバーオールをすぐに交換し、車に飛び乗って降りました。彼らは彼と一緒に働いていて、彼の手や物をこすりました、そして私は入って来ました。そして彼の目はずっと後退しました。私は「ブラザーホール」と言いました。

彼は「どうしたの?」と言いました。

私は「主の言葉を得た」と言いました。ああ、あなたはその時あなたがどのように感じているかを決して知らないでしょう。アーメン。神がそれを言うとき、それは終わりです。

「ビリー兄弟、それはなんですか?」と言いました。

私は言いました、「主イエス……あなたはどれくらい病気でしたか、ホール兄弟?」

彼は言った、「マティー、あなたは彼に言います。」それは彼の妻です。

彼女は、「まあ、彼は特定の月に病気になりました」と言いました、「約5ヶ月」と言いました。

私は言いました「それが私が思った事です5か月!」私は言いました。「今朝、5つの青リンゴが目の前にぶら下がっていて、大きなリンゴが降りてきて、5つの青リンゴを食べ尽くしました。そして、聖霊、神の天使、誰が…」



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7